

児童・生徒の実態

- ・気持ちにむらがあり、集中の持続や姿勢の維持が難しい。不安や困り感があるといらいらする。

☆手立て・合理的配慮

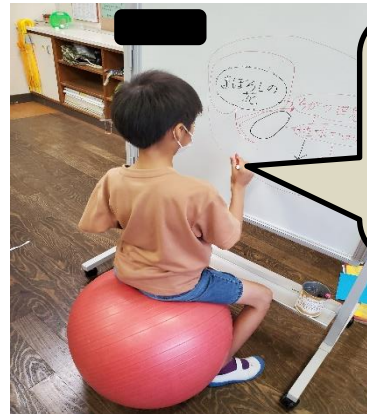
児童が学習する場所や座る姿勢を、自分で選択して学習ができるようにする。

(自分の席、大きな作業机、隔離スペース、マットの上や床、バランスボール)

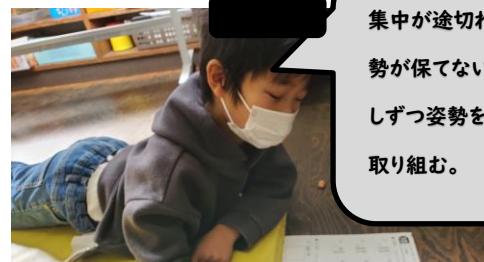
学習中でも、移動したいときは、「今日は後ろでします。」など、自分で伝えられるように練習する。

困った時にどのように行動すればよいかを、常に表示しておく、選んで行動に移せるようにする。

(眠たくなったとき、いらいらしたとき、分からないとき)



バランスボールと、ホワイトボードで学習する様子。



集中が途切れやすく姿勢が保てない児童は、少しずつ姿勢を変えながら取り組む。



いらいらしたときの行動をいくつか決めておき、児童が選べるように掲示する。

支援を受けてみて

- ・同じ姿勢では疲れるので、場所を移動したらがんばれた。(本人)